

横浜港と苫小牧港との協力体制構築のため 連携協定を締結しました

横浜港では、戦略港湾としての基幹航路の維持・拡大を目指し、国際フィーダー航路*の拡充など、積極的な施策を展開しています。

一方、苫小牧港では、韓国、中国、北米との国際定期コンテナ航路やフェリー、RORO船、コンテナ船の国内定期航路が就航しており、物流を支える港づくりに取り組んでいます。

このたび、これまでの両港の取組を活かしながら、相互協力体制を構築するため、協定を締結しました。

なお、今年度、横浜港と地方港湾との協定締結は、岩手県内港湾（平成30年2月）に続き2件目となります。

1 協定締結の目的と連携内容

横浜港と苫小牧港が連携することで、国際フィーダー航路等を活用した海上輸送ネットワークを強化し、今後見込まれる東南アジアとの貿易の増大など、海上物流の変化に的確に対応し、荷主の利便性向上を図っていくことを目的に、以下の項目について、相互協力体制を構築していきます。

- (1) 苫小牧港と横浜港との連携による海上輸送ネットワークの充実強化
- (2) 荷役機械、電気設備等の管理・運営面における技術協力
- (3) LNGバンカリング拠点形成に向けた情報交換、国等への施策提言
- (4) 国際コンテナ物流に関する情報交換、国等への施策提言及び予算要望

2 協定締結日

平成30年3月27日

3 今後の展開

横浜市と苫小牧港管理組合で協議し、具体的な事業展開について検討して進めていきます。



協定締結の様子（右から苫小牧港管理組合 佐々木専任副管理者、横浜市 伊東港湾局長）

※国際フィーダー航路

国際コンテナ戦略港湾（京浜港・阪神港）で外航航路と接続する内航コンテナ航路

お問合せ先

横浜市港湾局物流運営課長	岩上 教行	Tel 045-671-2919
苫小牧港管理組合総務部港湾振興室長	池淵 雅宏	Tel 0144-34-5901

※本件は、苫小牧港管理組合と同時発表しています

苫小牧港と横浜港の連携に関する協定書

我が国では国内港湾の競争力強化を図るべく、港湾施設整備による機能強化を進め、経済活動の活性化や国民生活の安定に資する物流網の構築を進めてきた。

こうした中、苫小牧港では、韓国、中国などに加え、北米との定期コンテナ航路、国際フィーダー航路を有し、北海道内最大のコンテナ取扱港として発展してきた。一方、横浜港では、戦略港湾として基幹航路の維持拡大、アジアをはじめとした世界各国との航路や国際フィーダー航路の拡充に取り組んできている。

これまでの両港の取組を活かしながら、今後見込まれる東南アジアとの貿易の増大など、海上物流の変化に的確に対応し、荷主の利便性向上を図っていくため、以下の項目について本協定を締結し、相互協力体制を構築するものである。

- 1 苫小牧港と横浜港との連携による海上輸送ネットワークの充実強化
- 2 荷役機械、電気設備等の管理・運営面における技術協力
- 3 LNG バンカリング拠点形成に向けた情報交換、国等への施策提言
- 4 国際コンテナ物流に関する情報交換、国等への施策提言及び予算要望

なお、事業展開を検討するため、苫小牧港と横浜港による協議の場を設けることとする。

平成30年3月27日

苫小牧港港湾管理者

苫小牧港管理組合 管理者 苫小牧市長 岩倉 博文

横浜港港湾管理者

横浜市長 林 文子